昭和51年9月14日国鉄運輸局別扱承認新聞紙第422号

週刊

うたごえ新聞

1/3・10
<新春号>
NO.641（1977年）

THE SINGING VOICE OF JAPAN
日本のうたごえ全国協議会機関紙
発行 東京都新宿区西大久保3－67
☎03（209）0638～9 ●うたごえ新聞社
振替口座 東京2－5631 昭和34年1月31日
第三種郵便物認可 毎週月曜日発行
1部60円（〒15円）・月250円（〒75円）

春に向かってふきのとうは…

岩下芳子さん

あれから1年…

活躍するアイドル

ちょうど一年前の本紙新春号で「特集・昼間定時制って知ってますか」を掲載しました。故郷を離れて、愛知県に働く四人のセンイ娘を報じたもの。あれから一年。「一日も早く会社を辞めたい」ほどの重労働の彼女たちは、その後、どうしているのだろうか？編集部では愛知県の通信員を結集して彼女たちの「一年後」を追ってみた。その一人岩下芳子さんは、昼間定時制を卒業後も会社にとどまり、今は「愛知センイのうたごえ」で活躍していたのです

【愛知のうたごえ通信員チーム発】

七六年三月一日。岩下芳子をのぞくセンイ三人娘は、昼間定時制を卒業し、新たな門出を迎えました。

岩下芳子も三人同様帰りたかったのですが、一人同じ職場に残ったのです。

そして、彼女もまた新たな道を切り開いたのです…。

四月十六日、彼女は兵庫県豊岡市に本校を持つ近畿大学豊岡女子短大の通信分校「半田学園」に入学したのです。

そこでは、幼児教育を学び保母を目ざしている。

「四年間学んだといってもまだ何もできないの。だからもう少し勉強してネ、何か身につけたいの」と、子どもっぽい顔で話してくれる。

大きな夢が彼女の胸にはふくらんでいるのだ。

のんびり屋の彼女につけられた愛称は"パンダちゃん"。

そして、あまり自分からは話さない彼女も、知らないうちにコツコツと一所懸命に一つひとつ、積み重ねてゆく、そんな努力家でもある。だから、「仕事と勉強つらくない？」、と聞くと「何がつらいの？」、と人ごとのような顔をする。苦しみ、悲しみを外に出さない彼女を何がささえているのだろうか……。

◇

処多の繊維ではお姉さん格の岩下芳子。彼女自身、「そんなことないヨ」というが、中央合唱団、アンサンブル・ケーナのとりくみでは、合唱団の仲間とともに、若い娘たちの先頭に立ち、引っぱっている。

そんな「力」を、三月の日本のうたごえ祭典成功めざしてはじめて繊維の仲間にも呼びかけているのです。

◇

ある日、そんな彼女から電話がかかってきた。ある青年から交際を申し込まれたという。そして、どうしたらよいか悩んでいる、ということだった。

二十歳（はたち）の女の子だから、悩み、苦しむ。しかし冷静だった。

けして、その青年のことが嫌いではないが、盲目的に"走る"のではなく、今では、その青年のことを「お兄ちゃん」と呼び、六月に東浦町に作られた東浦うたう会の建設をいっしょに進めている。

今、新しい経験が、またひとつ彼女の心の奥に積み重ねられたのだ。

◇

「岩下芳子をささえているものは何か」の答えは最後に彼女が語ってくれたなかにあった。

「仲間が力を合わせガンバル姿が一番好き。何といっていいのかわからないけど、心の歌をうたいたい。人それぞれ環境、立場がちがうけど、でも、その違いを越えてガンバリたい」。

彼女の姿は、目立つことのない、ふきのとうだ。長い冬にも、寒さにもまけない、ふきのとうが今、春に向って大きな力をたくわえている。

（文中敬称略）

【愛知うたごえ通信員チーム、鈴木光彦通信員発】

愛知県下の繊維のうたごえ参加の仲間の合同会議が十一月十四日（日）、東海音楽センターで開かれました。

この会議では①三月の日本のうたごえ祭典に繊維として、どんなとりくみをするか②二月頃、繊維の仲間の交流会を持てないか、の二点について、話しあわれました。

そして、この会議は「繊維のうたごえ連絡会（仮称）」の準備会として企画されたものです。

当日は県下から、十一名が参加しました。人数だけをみると、あまりに少ないのですが、しかし、彼女たちの平均年齢は十五～十八歳というフレッシュさ。

また、彼女たちの仕事の状況―昼間定時制に通いながら繊維娘として働く――から考えると、けして、何百人もの参加より、充実していたと思われます。

午前十時からの交流会では、お互いに職場、寮、生活、学校のことなどを出しあい、午後からは、それぞれが話したことを踏にしようと、「創作」の時間が持たれました。（詳細は次回創作特集号に掲載予定）

最後に、参加者一人ひとりの感想を出し合い、日本のうたごえ祭典で発表する繊維の創作曲「ガチャンコ節」を合唱して会議を終わりました。

なお、日本のうたごえ祭典に向けて愛知の繊維関係だけで、百名以上は組織しようと確認されました。

―会議の参加者たちです―

ふめんだい

「ロッキードの七六年」とは、だれもが納得するところだが、「文化問題とロッキードの根はひとつ」と良識ある文化人、音楽家が会合を開いたことは案外知られてはいなかった……。

「ロッキードを墜ち落とせ」とばかりに、風刺の歌も作られた。

◇ ◇ ◇

一方、若者の中には、東のアグネス、西のコマネチと、"アイドル・ブーム"の輪は野火のように広がり田中角栄が逮捕されているころ「山口さんちのツトム君」が「タイヤキくん」を食う……世相に"ブーム"の若者は何を求め、その一票は何に向って投じられたのだろうか。

◇ ◇ ◇

「だれもが予想し得なかった」激動の一年、と一言で片づけるのは早計。

うたごえ運動もその激動の中にいるからだ。

七七年を「だれのもの」にするかは、歴史ではなくあなたが決めることなのだ。

（信）

―新春号の主な記事―

新春にあたって（藤本洋）／今年の各地合唱団演奏会から 2面
最近の2つの音楽会から（広島合唱団、E・ケーナ）／十大ニュース 3面
新春訪問・勝部太さん 4面
新選歌・助川敏弥さん／新年号クイズ 5面
下条アトムさんを訪ねて／ゲームあれこれ
「暁の大合唱」プロムナード／戸部和豊さん／スキーまつり／ロンガ 6・7面
「私たちの街とサークル」（青森・山口・鹿児島・神奈川・京都） 8面
映画と映画音楽を占う／インティイジマニの魅力をさぐる 9面
「ふれあいのページ」（長野・愛知・京都）／通信ありがとう／相川マチさん 10面
随想 うたごえ活動家の今年／巳年生まれのアイドルさん 11面
ビッキーズ／映画・TVお正月番組／77年の音楽界を占う 12面